

第55回評価監視委員会の開催について

第55回 一般財団法人建設物価調査会評価監視委員会が開催されましたので、議事概要についてお知らせいたします。

開催日時	平成30年6月22日(金) 15:00～17:00	
開催場所	一般財団法人建設物価調査会 会議室	
出席委員 (五十音順)	大山 修(株式会社 Tomorrow's Business Creation 代表取締役 公認会計士) 白戸 智(株式会社 三菱総合研究所 地域創生事業本部 地域産業戦略グループ 主席研究員) 寺川 祐一(委員長(医療用医薬品製造販売業公正取引協議会 専務理事)) 真島 審一(元 会計検査院 第5局長) 宮本 和明(パンフィックコンサルタンツ株式会社 社会マネジメント本部 技術顧問)	
	第一土木調査部 高橋 俊一、矢倉 一憲、村田 裕介、門傳 智弘 共通資材調査部 大谷 忠広、川野辺 豊、康広 誠己 沖縄支部 吉川 洋史 調査統括部 鈴木 昌樹、古井戸 宏 監査審査室 後藤 裕、勝井 治	
審議案件	案 件	備 考
	(定期調査) 再生クラッシュラン 那覇価格	「建設物価」平成30年5月号132ページ掲載価格について、調査結果記録票、調査結果集計表等に基づき、調査方法、調査プロセス等を説明。
	(受託調査) 平成29年度 施工合理化調査等解析業務	受託調査について、調査票、調査報告書等に基づき、調査方法、調査プロセス等を説明。
委員からの主な意見・質問、それに対する調査会からの回答等	別紙のとおり	
委員会による指摘(不適切な点又は改善すべき点)	なし	

意見・質問	説明・回答
<p>1. 定期調査について 再生クラッシュラン (那覇価格)</p> <p>○ 調査是那覇空港工事だけではなく、空港工事以外の一般工事も対象としたのか。</p> <p>○ 価格のうち、運搬費の占める割合がかなり大きいですが、メーカーは運搬費の調整をどのようにしているのか。</p> <p>○ 那覇空港工事向けの資材価格調査は、受託調査で対応しているのか。</p> <p>○ 沖縄の需要是那覇空港工事向けが多いのか。</p> <p>○ 新材は公共工事でほとんど使用されないのか。</p> <p>○ 新材と再生材のメーカーは異なるのか。</p> <p>○ 那覇空港工事向けの資材価格は、クラッシュラン以外についても値上がりしているのか。</p> <p>○ 再生材と新材について、買い手調査先の反応はどうか。</p> <p>○ 資料のコスト構成をみるとヤード渡し実勢価格、運搬費は各社異なるが、現着実勢価格はバラつきが少ない。各社競合の結果か。</p> <p>○ 現着実勢価格は調査結果、運搬費は推計した結果か。また、両者比較の結果としてヤード渡し実勢価格を算出したのか。</p>	<p>○ 空港以外の工事を対象としている。那覇空港工事向けは「建設物価」掲載の取引数量を超えているため、対象外としている。</p> <p>○ メーカーは自社輸送、輸送会社への委託などで製品を運搬している。また、道路工事業者がメーカーまで引き取りに行くこともある。引き取りの場合は、ヤード渡し価格になるが、調査はメーカーが現場まで持ち込む価格(現着価格)を対象としている。</p> <p>○ 工区ごとに受託調査で対応している。</p> <p>○ 那覇空港工事向けが多い。</p> <p>○ 再生材の供給ができなければ、新材が使用される。</p> <p>○ 基本的には異なる。</p> <p>○ 値上がりしている。</p> <p>○ 安定した調達を優先する買い手がほとんどであり、売り手優位の状況が続いている。</p> <p>○ 各社競合の結果である。</p> <p>○ 現着実勢価格は調査結果であり、ヤード渡し実勢価格や運搬費は調査の中で参考として確認し、検証で利用している。</p>

意見・質問	説明・回答
<p>2. 受託調査について 平成29年度 施工合理化調査等解析業務</p> <p>○ 合理化調査の結果、歩掛が減少しているが、その理由は何か。</p> <p>○ 複合していた作業の工種を分けて、歩掛を新たに設定したということか。</p> <p>○ 橋梁補修工事における橋梁特殊工と特殊作業員の定義が曖昧で、調査票記入者の判断が分かれている。曖昧な定義を明確にする考えはないのか。</p> <p>○ 今回の説明は支承取替工の「鋼製支承から鋼製支承」についてなされているが、鋼製支承はまだ公共工事で使用されているのか。</p> <p>○ 鋼製支承からゴム支承に切り替えている発注者も多いのでは。</p> <p>○ すべての橋梁がゴム支承に替えているわけではないのか。</p> <p>○ 鋼製支承の歩掛はなくなるのか。</p> <p>○ 今回の説明内容は全体作業の一部か。</p> <p>○ 最初の段階ではデータにバラつきがあるが、標準化がうまくできていないのか。</p> <p>○ 説明で使用された資料は全体の一部か。</p>	<p>○ 作業内容を明確にした結果、作業範囲を見直したことにより、歩掛が減少した。</p> <p>○ 工種を分けて歩掛を新たに設定した。</p> <p>○ 公共工事51職種の定義では、橋梁補修工事の作業区分が明確ではないので「この点を明確にしたかどうか」という提案はできると思う。</p> <p>○ 鋼製支承はまだ使われており、実際に「鋼製支承から鋼製支承」についてのデータもある。</p> <p>○ 支承のサイズが合わず、鋼製支承からゴム支承への変更が難しい場合がある。また、今回は単年度工事を対象とした調査で、小さな橋梁工事を対象としたデータが集まった。</p> <p>○ 回収データは全国から集まり、国及び地方自治体発注の工事が対象である。国が管理する大きな橋梁では、免震タイプのゴム支承が使用されているが、地方自治体が管理する小さな橋梁では、いまだ鋼製支承が使用されている。</p> <p>○ 国、地方自治体ともに使用する歩掛なので、すぐにはなくなる。ただ、2～3年かけて調査した結果、鋼製支承のデータが集まらなければ、なくなる可能性もある。</p> <p>○ 複数工種のうち、支承取替工の一部を説明している。</p> <p>○ バラつきのあるデータを、時間を掛けたヒアリングにより精査している。</p> <p>○ 全体の一部である。</p>
<p>3. 次回開催日について</p> <p>○ 次回評価監視委員会は、平成30年10月中旬から下旬に開催予定。</p>	